

●里山農園一斉草刈作業 6日10人が参加 中の道より南側の除草作業を実施 ササユリ坂の清掃進む

6月に入り各地で、猛暑日が続きます。これだけ雨が少ないと稲作に大きな影響が出てくるものです。雨乞いの神事などほとんど話題になっていません。昨日の事務局会議で、昨年は玉ねぎの収穫前に水やり等行ったことなどなかったが、今年初めて2回も実施した。大変異常な気候になっています。もし今年稲作を里山の畑で行っていたらひどい、水不足に悩まされていたにちがいません。予定地の5号地の池の水は底だまりで周囲の土地は完全に干上がって白くなっています。このように天然自然相手の取組は状況をしっかり認識したうえでなければ苦労が報われなくなります

●琵琶湖・淀川流域圏連携交流会定期総会 7日午後4時から実施 枚方市環境パートナーセンター 10人

発足して10年以上が経過し、淀川流域で多くの取組を開始し連携で活動する団体の紹介が広められてきました。里山の会も随分と後援をいただけてきました。その総会が開かれ、河川協力団体の話題もにぎやかになりました。今年は新型コロナウイルスの感染防止のために活動がかなり制限されますが計画ががっちり決定されました。随時プランを紹介されるようですのでご期待ください。さくらであい館で毎月の活動紹介と懇談会を開催し交流を深める企画に期待が寄せられています

●ホタルの集い開催 13日 集合19:55 普賢寺小学校前、時間厳守

見学場所へ移動 解散は20:30となります。里山の会で最も人気のある取組の一つが初夏に行うホタルの夕べです。暗くなった空に飛び出してくるホタルが舞う姿に老若男女感嘆の声が上がります。これまで素晴らしい取組でした。この楽しい取組がコロナウイルスですべて開催できなくなり、いたってシンプルなものになってしまいました。案内は諸般の事情から広く参加を呼び掛けるのではなく、里山ニュースの届く範囲での案内となっていることをご了承ください。ご参加の場合は懐中電灯をお持ちください。もちろんマスク着用です。

●農機具の安全使用学習会の実施の案内 7月14日10:00~14:00の予定 講習場所は里山農園を予定

集合：普賢寺小学校前 9:50 講習会場所へ移動 時間厳守でご集合ください 遅刻の場合は南へ500m 持参物 上着(長袖)、長ズボン、長靴が最適、弁当、水筒、帽子(あればヘルメット)、筆記具、手袋、

手ぬぐい、コロナ対策、休憩所あり、駐車場あり、実体験実施、

講師 京都府農業大学からの紹介で小林様他数名がお越しくださいます。ご参加をお願いします。

●国蝶オオムラサキの飛散飛翔防止対策 ネットの覆被せ作業実施 20日里山農園 榎の若木をくるむ

毎年6月末ごろから7月末ごろまでが国蝶オオムラサキの成体の観察時期とされています。数年前まではかなり確認できておりましたが、近年はさっぱり確認できなくなりました。一昨年強力な台風で樹液を出してくれていた巨木がかなり倒壊し非常に厳しい環境に変わりました。冬の幼虫観察会では、昨年やっとのことでオオムラサキの幼虫を3匹のみの発見に終わりました。昨年はこの時期に一週間をかけてパイナップルやバナナなどに加えて焼酎も入れたトラップの呼びよせ装置を使って一週間見張りましたが、さっぱり成果はあがりませんでした。餌や匂いなどによるおびき寄せではとても成虫を確認できないと判断して、今年は冬にオオムラサキの幼虫をみつけて、そのま

ま放置しておいた榎の木をすっぽりネットで覆っておくと飛翔飛散を防げるとかかもしれないと気づきました。すなわち榎をすっぽり覆ってみようと方式を変更しました。羽化の時期を6月20日と予定してこの日に覆うことに決定しました。

思い通りになれば大成功だと思います。万一成功しなくても失敗ではなくいろいろ教訓を引き出してよい教訓として学びたいと思います。そして直ちに網を引き揚げて産卵してくれるように環境を整えなければならぬと考えています。網が注文通りに入荷すれば直ちに実施いたします。お手伝いにお越しく下さい。

●京都府交響プロジェクト交付金申請のヒアリングに出かける 大釜さん 10日

2020年度の京都府交響プロジェクト交付金の申請書の作成を大釜さんをお願いしてきました。19年度はこれまでになく減額が少なく計画通りに執行できました。2020年は7つのイベントを計画し昨年通りの中聖牛設置講習会。竹蛇籠製作里山の会の講習会。親子で遊ぼう学ぼう魚とり、カヌー教室、希望者が多くなっている木津川の植物写真集の増刷などを盛り込んで申請できるところまで準備を進めていただきました。全体予算額は300万円で外部講師謝金や交通費、内部講師への謝金と交通費、そして諸費の5項目に仕分けして配分比率内に抑えた予算案で大へん手間のかかる作業が必要です。もちろん各事業内容をしっかり企画し、前年度の改善点や改良を図りさらに充実したものへと進歩させなければなりませんので着手前の工夫が最大の難関です。大釜さんには初体験の大仕事になりますが、見事にやり遂げていただいております。ご苦勞をおかけしますがもう少しなので力を尽くして頑張っていたいただきたいと思います。

●7《FS研究の内容とそこで得られた成果の概要》 2週分抜けましたので2回分掲載します

FS研究では、竹蛇籠水制や聖牛が試験的に設置されている木津川玉水橋下流域について平均年最大～2年確率洪水を3回、4～5年確率洪水を1回経験した前後の地形変化をドローンや水準測量で調査するとともに、周辺に形成された溜まりで水生動物群集の調査を行った、その結果、高水の度に聖牛自体は沈下しつつ前面の地盤高を上昇させ、聖牛の上流側は聖牛の浸食卓越に下流側は堆積卓越に転じた。また、河床変動計算の結果洪水ピーク時に聖牛群で水流が側方に跳ねて対岸の流速や右岸溜まりの流速を微増させる効果がみとめられた。一方、聖牛周辺のたまりの水生動物相は、近傍のたまりやワンドに比べて半翔目や鞘翅目などの止水性昆虫の割合が高いことがわかった、さらに、FS研究では、河川環境改善効果を高めるために、既設の聖牛の上流50m地点にあらたに3基の聖牛を製作設置し、事前並びに設置直後のモニタリング調査を実施している。

●8《一般研究の内容と期待されている成果の概要》

既存の竹蛇籠水制や成牛に加えて、同じ砂洲上で浸食堆積傾向の異なる地点に複数基を増設し比較調査することによって、「伝統的河川工法が河床地形や滞筋を変える効果」や「河床の生息場や生物群集に及ぼす影響」を、設置地点の浸食堆積傾向と対応する形で体系的に評価することができると期待される。また、これらの成果に基づいて、顕著な河岸浸食が課題となっている20Kp流程において、砂洲上に側流路を維持する目的で伝統的河川工法を設置する。これらの地点の経年変化を継続的にモニタリング調査することによって、流木補足や植生発達などの副次的な環境改変効果なども含めた知見の集積が期待できる。また、透過型水制に関する既往研究では、設置個所の浸食堆積傾向と地形改変効果の関係について必ずしも究明されていないため、本研究の成果は、一般の透過型水制の設置場所の選定方法としても活用できることが期待される。